

PRESS RELEASE

報道関係者各位

 令和5年4月1日
 公益社団法人 日本植物園協会

日本植物園協会ナショナルコレクション認定 ～植物遺産 日本で栽培される貴重な植物を守り、伝える～

我が国には6,700種類を超える野生植物が自生し、それらや渡来植物を元に数多くの観賞用植物や有用植物が作出されてきました。しかし、現在においては、日本の野生植物の約1/4が絶滅危惧種に選定され、古くに作出された栽培品種の多くも失われつつあるのが現状です。

日本植物園協会では、平成29年7月より「野生種、栽培種に関わらず、日本で栽培されている文化財、遺伝資源として貴重な植物を守り後世に伝えていく」ことを目的に、ナショナルコレクション制度をスタートしました。審査に合格したコレクションを貴重な植物遺産「日本植物園協会ナショナルコレクション」として認定し、情報を公開し、コレクションの橋渡しをすることで、長期間安定した保全を推進します。

今回、新たに2件が認定され、令和5年5月29日に開催される日本植物園協会高知大会（担当園：高知県立牧野植物園、会場：城西館）で認定証授与式が行われます。これまでの16件の認定で、ツバキやツツジ、サクラ等の伝統園芸植物をはじめとする2,511種類がナショナルコレクションとして登録されています。

我が国で栽培される貴重な植物を保全するための当協会の取り組みや、多様な植物コレクションのすばらしさを是非報道等で取り上げていただきたくご案内申し上げます。

○第15号「小田急山のホテル 庭園のシャクナゲ」 小田急電鉄株式会社（東京都）



山のホテルの庭園は、三菱財閥4代目総帥岩崎小彌太男爵の別邸が1911年（明治44年）に建築された際に整備された庭園に由来する。日本に最初に導入された西洋シャクナゲ「ゴーマー・ウオータラー」の元株をはじめとして、江戸時代末期から明治時代に海外で作出された貴重な9品種や、環境省の絶滅危惧種に選定されている野生種キョウマルシャクナゲやホソバシャクナゲなど、合計42種類約300株が保存されている。樹高5m以上の大株も含まれる明治から大正時代に成立した日本で最初のシャクナゲ園であり、種類および庭園的価値も高く、次世代に残すべき価値がある。

【2023年3月17日認定】

○第16号「国営武蔵丘陵森林公園サクラソウコレクション」

国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園（森林公園里山パークス共同体）（埼玉県）



2000年に個人の愛好家からサクラソウ124品種の株を譲り受けたのを契機に開始されたサクラソウのコレクション。現在ではさくらそう会認定品種数322品種のうち261品種並びに野生品7系統のコレクションを保存している。

2004年からは、サクラソウが開花する4月下旬頃に桜草花壇による伝統的な手法での展示を開始し、サクラソウの歴史や栽培等についての解説等の催し物などを実施するなど、さくらそう会と連携しながらサクラソウの普及啓発に努めている。

【2023年3月17日認定】



National
Collection
JABG National Plant Collection
Certification System

日本植物園協会 ナショナルコレクション委員会 [担当] 倉重
 114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
 TEL 03-5685-1431
 Email jabg-nc@syokubutsuen-kyokai.jp
 HP <http://www.syokubutsuen-kyokai.jp/nc/>

